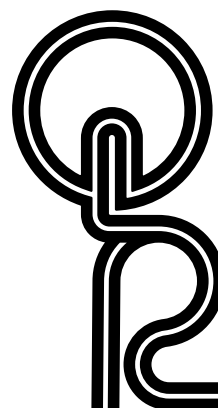


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 11 No.6, 2004



新潟県小千谷市細島付近の国道117号線の崩壊現場。崩落に巻き込まれた車も見える。国道が寸断されたため、この北側に位置する塩殿地区の住民は徒歩で食料や飲料水の買い出しに出かけていた。
(2004年10月24日 山崎晴雄撮影)

Vol. 11 No. 6

December 1, 2004

シンポジウムの案内 2	ICS-INQUA joint task force on the
国際会議の案内とお知らせ 4	Quaternary 8
お願いと公募 5	第四紀学専門委員会・幹事会議事録・
学会メーリングリストの活用 6 9
日本地球惑星科学連合設立に向けて 7	会員消息 11



画 北村雄一

自然誌シンポジウム・第四紀学会ミニシンポジウム

ナウマンゾウのいた頃

千葉県袖ヶ浦市吉野田の約20万年前の地層（下総層群清川層）から、ナウマンゾウをはじめとして総数1000点をこえる化石が発見されました。このシンポジウムではその化石群と地層から、この時代の古生態や古環境を復元します。

平成17年

2月20日(日)

10:00～15:00

千葉県立中央博物館 講堂
無料 先着200名

共催 千葉県立中央博物館
日本第四紀学会



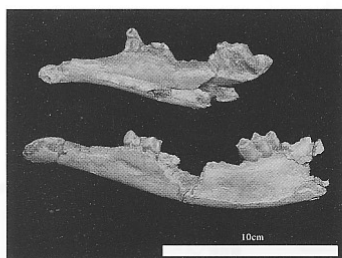
連絡先：千葉県立中央博物館
〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
TEL: 043-265-3111, FAX: 043-266-2481
<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

アクセス：
・JR千葉駅東口⑦乗場からバス 約15分「中央博物館」バス停下車 徒歩約7分
・京成千葉寺駅から 徒歩約20分・京葉道路 松ヶ丘ICから 約5分
(詳しいアクセス情報などはHPをご覧ください。)

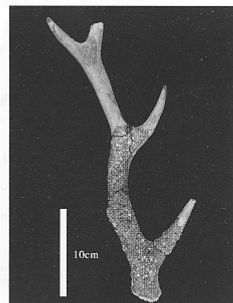
プログラム

*** **

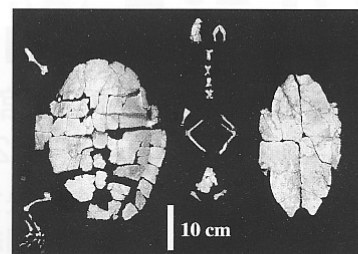
- 10:00～10:05 シンポジウム主旨説明
- 10:05～10:30 脊椎動物化石層の発掘
—袖ヶ浦市吉野田にて—
兼子尚知
(産業総合研究所 地質調査総合センター)
- 10:30～10:50 下総層群清川層の年代と構造運動
中里裕臣(農業工学研究所)・佐藤弘幸(静岡聖光学院)
- 10:50～11:15 河川の氾濫原の古環境と化石群
岡崎浩子(千葉県立中央博物館)
- ◆ 11:15～11:35 特別講演：海水準変動による地形変化
池田 宏(筑波大学)
- 11:35～12:00 下総層群清川層から発見された化石カメ類について
平山 廉(早稲田大学)
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～13:20 下総層群清川層から産出する植物化石
百原 新(千葉大学)・奥田昌明・斎木健一(千葉県立中央博物館)
- 13:20～13:40 貝化石からさぐる淡水の環境
伊左治鎮司(千葉県立中央博物館)・鶴飼宏明(熊本県御所浦白亜紀資料館)
- 13:40～14:05 下総層群清川層から産出したニホンジカについて
高乗祐司(群馬県立自然史博物館)
- 14:05～14:30 袖ヶ浦市吉野田産のナウマンゾウ
樽 創(神奈川県立生命の星・地球博物館)
- 14:30～15:00 総合討論「ナウマンゾウのいた頃の自然環境と生物」



ニホンジカの下顎骨



ニホンジカの角



カメ類の全身骨格

企画展「おもしろ研究紹介」(平成17年1月15日～2月27日)でこれらの化石を展示します。

国際会議のご案内

International Symposium: "New Approaches to Quaternary Sciences in Fuego-Patagonia"

4-9 April, 2005, Puerto Natales, Chile

http://kataix.umag.cl/~cequa/index_eng.html

主催機関: Center for Quaternary Studies, Chile; University of Magallanes, Chile; Queen's University, Northern Ireland

講演要旨締切: 2004年12月20日

一般参加費(巡検含む): US\$350(2005年3/7まで)

PAGES second open science meeting

10-12 August, 2005, Beijing, China

<http://www.pages2005.org>

PAGES(Past Global Changes)の第2回オープンミーティング

主なスポンサー: Chinese Academy of Sciences; National Natural Science Foundation of China; US National Science Foundation; National Oceanic & Atmospheric Administration; Swiss National Science Foundation

予定講演リストなどの載った circular も出ています。

講演要旨締切: 2005年3月31日

Funding support: 2005年4月30日

一般参加費: US\$250 (2005年5/15まで)

庶務幹事よりお知らせ

日本第四紀学会が業務を委託しておりました(財)日本学会事務センターは2004年8月に破産し、現在幹事会が暫定的な体制で対応しています。会員の皆様にはご不便をおかけしておりますが、年内をめどに新委託先を選定し、業務の引継をおこなう予定です。その間は以下の通りご協力をお願い申し上げます。

1. 会費(正会員9,000円、学生5,000円)は下記の郵便振替口座へ納入してください。
口座番号: 001060-7-613393 名義: 日本第四紀学会
現在200名以上の方が2年以上の滞納となっています。学会事務センター預かり金約325万円の損失で学会は大きな痛手を被りました。未納の方には学会誌の発送を停止しておりますが、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。
なお、海外会員の方は振込先を改めてご案内するまでお待ち願います。
2. 入会希望・退会・住所変更などの諸連絡は現在庶務幹事と幹事長が対応しております。メールかFaxで下記へご連絡下さい。ご連絡の際は必ず、日本第四紀学会の用件とご記入ください。
幹事長 山崎晴雄 yamazaki@comp.metro-u.ac.jp Fax: 0426-77-2589(都立大)
庶務幹事 久保純子 sumik@waseda.jp Fax: 03-5273-4435(早稲田大)
3. 投稿原稿は学会事務センターではなく、下記編集書記あてお送りください。
〒252-1123 綾瀬市早川1345-40 日本第四紀学会編集書記 綿引裕子

公費等による団体会員・購読会員の皆様へお願い

本学会が業務を委託しておりました(財)日本学会事務センターが8月に破産し、皆さまにはご迷惑・ご心配をおかけし誠に申し訳ございません。

現在、学会事務センターの業務停止にともない、定期購読者様への会誌送付、学会名での請求書の発行、バックナンバーおよび大会講演要旨集等の販売は休止しております。幹事会ではただいま新しい委託契約先を選定中ですので、決まり次第改めてご案内の上業務再開の予定です。申し訳ございませんが、しばらくの間お待ちいただきますようお願い申し上げます。

2004年11月
日本第四紀学会庶務幹事

活断層研究センター研究員の公募

(独)産業技術総合研究所活断層研究センターでは、若手任期付研究員を2名公募します。

1. 所属 活断層調査研究チーム

高精度の地震被害予測に必要な基礎データがまだ十分には得られていない重要活断層を対象として、地形・地質・地球物理学的手法を駆使した調査を行い、断層形態と古地震学的なパラメータを取得し得る、地球科学分野の高度な専門性と知的柔軟性を持ち合わせた研究者を募集する。

問合せ先 吉岡敏和 029-861-2465

2. 所属 海溝型地震履歴研究チーム

古環境解析等の手法を駆使して沿岸域の地震性及び非地震性地殻変動を明らかにし、海溝沿いの巨大地震の多様性解明を通じて、次の地震の予測精度向上に貢献し得る、地球科学・生態学分野の高度な専門性と深い洞察力を持ち合わせた研究者を募集する。

問合せ先 岡村行信 029-861-3855

以下は両者に共通な事項です。

- ・応募締切日：平成16年12月28日(火)
- ・採用予定時期：平成17年4月1日
- ・任期：5年(平成22年3月31日まで)

必要な書類、応募先などは、[こちら](#)をご覧ください。

http://www.aist.go.jp/aist_j/employment/employment.html

また、活断層研究センターのメンバー・活動内容などについては

<http://unit.aist.go.jp/actfault/activef.html> をご覧ください。

学会メーリングリストの活用について

前号でご報告しましたように、今年8月に学会メーリングリストjaqrを緊急連絡用に立ち上げました。もっと活用してはという一般会員の方からの要望を受け、幹事会では会員の皆様への一般の情報配信手段にも利用することを決めました。

これまで、偶数月初めに配送しております第四紀通信では、編集と配送の狭間に入り漏れていた情報(シンポジウムなど)や、より早くお伝えすることで会員の皆様の利益になると思われる情報(公募など)を優先的に配信してゆく所存です。一般会員の方から直接配信は出来ない設定になっておりますので、情報はこれまで通り庶務幹事宛にお送り下さい。なお、日本第四紀学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/qr/QR2home.htm>)にも最新の情報を載せておりますので、こちらも含めてご利用下さい。

まだメーリングリストに登録されていない方で新たに登録を希望する方、現在登録されているが削除して欲しい方、アドレスを変更したい方は、その旨広報幹事・兵頭政幸<mhyodo@kobe-u.ac.jp>宛にご連絡くださるか、または、以下に示す自動登録・削除の方法で行ってください。なお、経費節約のためお一人様1件のメール登録に限らせていただきます。

<自動登録・削除>

下記の本文をメールアドレスMajordomo@ml.udn.ne.jpへメール送信後、確認のメールが届けられて処理することで自動的に行えます。ただし登録とアドレス変更については、学会員かどうかの審査を受けます。

まず、宛名To: Majordomo@ml.udn.ne.jpに、Subject: Cc: などすべて空白にし、署名なしで、以下の文を本文に入れて送信してください。

登録の場合の本文

subscribe jaqr お名前<アドレス>

end

の2行のみ

(例)

subscribe jaqr 学会太郎<taro@aaa.ne.jp>

end

削除の場合の本文

unsubscribe jaqr お名前<アドレス>

end

の2行のみ

登録アドレスの変更の場合の本文

unsubscribe jaqr お名前<現アドレス>

subscribe jaqr お名前<新アドレス>

end

の3行のみ

日本第四紀学会員かどうかの審査のため、必ずアドレスの前にお名前(同一名の会員がいる場合には所属+お名前)をできれば漢字でお書きください。またアドレスは必ず<>に入れてください。

(例)

unsubscribe jaqr 第四紀大学・学会太郎<taro@aaa.ne.jp>

subscribe jaqr 第四紀大学・学会太郎<gtaro@bbb.ne.jp>

end

送信後、Majordomo@ml.udn.ne.jpから一度確認のメールが来ますので、そのメールの指示にしたがって処理を進めてください。この処理の時も送信時には本文の最後に必ずendを付けてください。endを付け忘れると自動署名の設定の場合正しく処理できないことがあります。質問等は、広報幹事・兵頭政幸<mhyodo@kobe-u.ac.jp>までご連絡ください。

日本地球惑星科学連合の設立に向けて

地球惑星科学に関わる学会相互の情報交換を進め、政府や学術会議に対する地球惑星科学・地学教育の統一的な窓口となる組織の設立が急速に進められています。日本第四紀学会も、この組織の設立メンバーの一つとして、2004年春から新組織の体制や運営方針の検討に加わっています。そして、2004年10月30日には、日本地球惑星科学連合（連合）の設立準備会が関連20学会の合意のもとに発足し、2005年地球惑星科学関連学会合同大会（合同大会）での連合設立を目指して準備をすすめることになりました。

連合設立の背景は(1) トップダウンの科学技術政策決定、(2) 日本学術会議の根本的な改革、(3) 理科教育における地学教育の地盤沈下が主要なものです。物理学・化学などは、関連学会を統合した研連を持ち、学会の意見を強力に主張することができます。しかし、地学分野は小規模な学会が多数存在し、近年の研究教育環境の変化に対する意見を効果的に発信することができない状況に追いやられています。学術研究・教育政策の決定に地球惑星科学研究者の意向を反映するためには、一刻も早く分野横断的な連携組織を作ることが必要となっています。

この状況に対応する連携組織を作るため、地球物理学関連学会の提唱をうけて合同大会加盟学会が連合を作る案が練られ、準備会が設立されました。現在の案では、連合に加盟する学会は連合に人材と情報を提供しますが、運営経費は基本的に個人が負担する参加費によってまかなわれる予定です。連合の主な役割は、(a) 公的機関及び社会一般からの地球惑星科学への諸要請の受け取り、加盟学会と個人の意見を集約して対外的に発信／公開すること、(b) 国際学協会や国際プロジェクト等への対応、(c) 合同大会や国際会議等の企画・運営・開催、(d) 地学教育の在り方、地球観測の推進方策、将来的な地球惑星科学発展の方向など、地球惑星科学コミュニティー共通の問題の検討、があげられています。

日本第四紀学会は会員の多くが地球惑星科学に関わる研究・教育・業務を進めているうえ、国際第四紀研究連合（INQUA）とも密接な関係があります。第四紀研究の進展のために、連合へ積極的に参加し地球科学の中で役割を果たしていくことが必要です。会員各位がこの動きを見守ってくださるようお願いいたします。また、ご意見をお持ちの方は担当幹事までお伝えください。これまでの経過の詳細については学会ホームページをご覧ください。

奥村晃史（渉外担当幹事：kojiok@hiroshima-u.ac.jp）

ICS-INQUA joint task force on the Quaternary

Felix Gradstein and John Clague

Rationale

For over a century, the status and stratigraphic position of the Quaternary have been debated. Authoritative papers on the history of Quaternary, and its recommended stratigraphic definition and status include Berggen (1989), Lourens et al. (2004), Ogg (2004), and Pillans (2004). The INQUA Executive, through consultation with the Quaternary community in 2004, has found widespread support for defining the Quaternary as a chronostratigraphic unit with a base at 2.6 Ma. As a consequence, ICS and INQUA consider it timely to decide on the stratigraphic meaning of the Quaternary, so that it can be unequivocally placed in the standard global time scale. John Clague, President of INQUA, Felix Gradstein, Chair of ICS, assisted by outgoing IUGS President Ed de Mulder, have agreed that a task force be struck that will make a recommendation to ICS on the definition of the Quaternary in 2005.

Task force

The task force on the Quaternary will comprise members of INQUA and ICS, and will be charged with the single task of defining the Quaternary in a stratigraphic sense. It will formulate a single proposal that will be discussed at the Second ICS Workshop on the Future of Stratigraphy in September 2005 in Leuven, Belgium. This workshop will be attended by the chairs of all Subcommissions of ICS, and the President of the INQUA Commission on Stratigraphy and Geochronology. If the task force recommends definition in a formal chronostratigraphic sense, its proposal will go through the standard ICS consultation, voting, and ratification procedures.

The task force will consist of 8 members and will receive advice and input from its wider constituency. The members of the task force are:

Chair: James Gehling, Australia

Vice-Chair: Brad Pillans, Australia

Secretary: James Ogg, USA

Two members of INQUA Commission on Stratigraphy and Geochronology, appointed by the executive of INQUA

Three members of ICS Subcommission on Quaternary Stratigraphy, appointed by the executive of ICS

References

Berggen, 1989. The Cenozoic Era: Lyellian (chrono) stratigraphy and nomenclatural reform at the millennium. In: Blundell, D.J. & Scott, A.C. (eds) *Lyell: the past is the key to the Present*. Geological Society, London, Special Publication 143, 11-132.

Lourens, L., F. Hilgen, N.J. Shackleton, J. Laskar and D. Wilson, 2004. The Neogene Period. In: Gradstein, Ogg and Smith, 2004. *Geologic Time Scale 2004*. Cambridge University Press.

Ogg, J., 2004. Introduction to concepts and proposed standardization of the term Quaternary. *Episodes* 27 (2), 125-126.

Pillans, B., 2004. Proposal to redefine the Quaternary. *Episodes* 27 (2), 127.

John J. Clague

Gordon M. Shrum Professor of Science
CRC Professor of Natural Hazard Research
Department of Earth Sciences
Simon Fraser University
Burnaby, BC V5A 1S6
Canada

Phone: 1-604-291-4924

Fax: 1-604-291-4198

E-mail: jclague@sfu.ca

Webpage: <http://www.sfu.ca/~jclague>

第19期・第5回第四紀学専門委員会 議事録

日時：平成16年9月3日（金）13：30～16：00
 会場：日本学術会議 第6部会議室
 出席：町田 洋，岩田修二，奥村晃史，小野 昭，
 川辺孝幸，河村善也，齋藤文紀，三田村宗樹
 欠席：竹村恵二，多田隆治，松浦秀治

前々回（3月24日）および前回（7月28日）の議事録の確認をおこなった。
 関係資料（1）3/24議事録案，（2）7/28議事録案と，前回の追加資料（3）北淡国際活断層シンポジウム2005の第一報を配付した。

1. 報告事項

- 1-1. 地質科学総合研連（報告者：町田 洋）
 1) 2005年度に発足する日本学術会議の新体制についての学術会議会長からの報告があった。現会長・学士院院長・科学技術総合会議議長の3人が，新会員選出のための30人の選考委員を選定した。選考委員には地球科学関係では久城育夫氏のみである。連携会員・学協会との関係などは不明。また，国際学会対応についても情報がまだ無い。
 2) 太平洋学術会議を2007年に沖縄で開催することが決まった。基本計画を立てる必要がある旨呼びかけがあった。対応研連は太平洋研連（委員長尾本恵一氏）。
 3) 「社会との対話」運動に関するアンケート調査があるので会員として町田が回答する。
 4) 2005年春に環境地質専門委員会を中心に都市の環境に関するシンポジウムを開催することを環境地質専門委員会が承諾した。
 5) 9月14日午後学術会議で地域学専門委員会主催のシンポジウム「地域学を超えて」が開かれる。
 1-2. 新地質年代表における「第四紀」の削除問題について（報告者：岩田修二）
 「第四紀」を削除すべきではないという本委員会の意見を，和文と英文の文書にして（資料4）国際第四紀学連合・国際地質学会などに送った。和文文書は「第四紀通信」11(5)12-13ページ参照。

2. 審議事項

- 2-1. シンポジウムについて
 内容案（8月26日版：資料5）をもとに，実行計画の細部を議論した。タイトルは「私たちの明日を考える：地球史が語る近未来の環境」にした。会場は明治大学に頼む。昼に専門委員会を開く。要旨集を作る。ポスターや看板は自作する。宣伝は東京中心にメールと郵送でおこなう。経費は10万円以内に納めるよう努力する。報告者には，報告内容の近未来について必ず語ってもらうようにする。
 2-2. シンポジウム終了後の第19期の活動方針について
 シンポジウムの成果の公表：シンポジウムの成果についての普及書の刊行計画についても，出版社との交渉を始める。
 学術会議に向けての，第四紀を宣伝するパンフ

レットも叩き台を岩田が作りシンポジウムのとき配布し，さらに改良する。
 （記録作成：岩田修二・小野 昭）

2004年度第1回幹事会議事録

日時：2004年8月27日（金）12:00～13:00
 会場：山形大学理学部地球環境学科図書室
 出席者：熊井久雄（会長），真野勝友（副会長），山崎晴雄，松浦秀治，小野 昭，池原 研，奥村晃史，河村善也，久保純子（記録）
 欠席者：齋藤文紀，兵頭政幸

議事

1. 評議員会・総会資料の確認
 「報告事項」
 1-4 広報のメーリングリストについては先日立ち上げた。
 2. 会計監査報告は上杉監査がおこなう。8月17日に学会事務センターの破産宣告があった。
 7. その他報告事項の学会事務センター破産の件は幹事長から報告する。
 「審議事項」
 2. 2004年度予算案に関して，学会事務センター預け金の損失額については，11月の管財人の説明時にはっきりする。6月末時点では預け金はマイナスであったが，7月に約650万円の会費の納入があり，学会事務センター業務委託金も支払い済みである。
 2.(財)日本学会事務センターの状況(山崎幹事長)
 8月17日に東京厚生年金会館にて管財人による説明会があった。当日9:00に破産宣告がおこなわれた。公認会計士により確認中であるが，現金資産は約1億5千万円，欠損金は16億円以上の模様である。現金は税金と未払い給与でほとんどなくなるとのこと。
 現在，各学会名義の通帳返却手続きをおこなっている。会員データについては9月6日に返却される。会計データは9月27日に返却の予定であるが，庶務関係資料はもう少しばかりかかる。会誌のバックナンバーは各学会に返却するので取りに来てほしいとのことであるが，どこに保管するかが問題である。
 業務内容については管財人は売却を希望しており，受け皿会社についても数社の申し込みがあるが，従業員の雇用確保を優先し，8月末までに結論を出したいとのこと。
 11月29日に東京地方裁判所で説明会が開かれる。文科省は特定の財団に補助はしない方針。
 学会事務センターに業務委託をおこなっていた学会のリストを地形学連合が要求し，リストが渡される予定である。
 3. 当面の体制について
 ・投稿原稿は編集書記あてに送ることとする。

- ・会費振込は新設の郵便振替口座へ変更する。
- ・海外からの送金窓口を確認する。
- ・入退会の手続きは庶務幹事がおこなう。
- ・会誌次号の発送は印刷会社(創文印刷工業)に委託する。
- ・会計手続きについては支払いを優先し、請求はしばらく見合わせる。
- ・幹事会出張旅費や50周年事業などの経費は小口現金で記録を残しておく。

次回幹事会は10月9日(土)14:00～、早稲田大学にて開催の予定。

2004年度第2回幹事会議事録

(注)10月9日に予定されていた幹事会が台風のため延期となり、31日に開催された。

日時:2004年10月31日(日)14:00～17:30
 会場:早稲田大学教育学部16-512演習室
 出席者:熊井久雄(会長)山崎晴雄、松浦秀治、奥村晃史、兵頭政幸、久保純子(記録)
 欠席者:真野勝友(副会長)小野昭、池原研、斎藤文紀、河村善也

議事

- ・審議事項(緊急議題を先に審議した)

1. 業務委託先について

山崎幹事長より、10月9日に予定されていた幹事会が台風で延期となったため、1)業務委託先をメールによる持ち回りで審議すること、2)いくつかの学会業務を受託している(株)春恒社を委託先に選定すること(ただし1)が了承された場合)について幹事会で持ち回り審議の結果、どちらも了承されたとの経過説明があった(数社による合い見積もりとらなかった理由については、ダンピングをおこなう会社もあり、同一規格品の価格比較とは性格が異なるため、委託内容に信頼がおけることを優先した結果である)。

次に(株)春恒社の中川庸幸氏(学会事務センターより異動)より、委託見積もり内容の説明があり、質疑をもとに細部の調整をおこなった。

- ・会誌発送業務は、(株)春恒社より宛名ラベル貼付(または印刷)済封筒を創文印刷工業(株)へ渡し、創文印刷工業へ発送を依頼する。

- ・国内一般会員の会費振込は学会名義の郵便振替(8月に新設したもの)を利用する。

- ・定期購読の公的機関はそれぞれ請求書発行の上、学会名義の銀行口座振り込みとする。

- ・海外会員のクレジットカード払いについては、現時点では(株)春恒社に対応していない(小切手または国際郵便為替等)が、早急に実現に向けてもらう。

- ・定期購読者(書店等)については、取次代理店として丸善(株)と交渉中であり、早急に詳細を決

める。

幹事会から評議員会へ(株)春恒社への業務委託を提案し、承認を受ける必要があるが、2月の評議員会を待たず、11月中旬に評議員へ関係資料を郵送して賛否を問うこととした。また、次号第四紀研究(43巻6号)と第四紀通信(11巻6号)は先号と同じ暫定体制で発送することとした。

2.雑誌バックナンバーの保管をおこなっていた学会ユーティリティセンターが破産し、11月中旬頃までに引きとりが必要となったため、在庫の多いものを処分することとした。その後の保管は(株)春恒社に委託する(データキーピングサービス等を利用)。

3. その他(通常業務)

引用許可1件(第四紀研究40巻6号 佐原真「考古学の年代」を岩波書店「佐原真の仕事シリーズ第1巻」へ)

雑誌電子化の件は来年度をめぐりJ-STAGEへの参加をめざし、会誌のPDF化の準備をする。

11月28日の学術会議研連シンポジウム関係の経費支出(予算内)を承認した。

学術会議の会員候補者ならびに科研費審査委員候補者の件について学術会議へ問い合わせ、確認する。

報告事項

1. 庶務

前回8/27幹事会議事録は第四紀通信次号に掲載。文科省の緊急科研費(学会事務センター破産関係学会の出版助成)に応募したが不採択となった。

会員消息(逝去会員、坂本亨会員)会員名簿引継ぎ確認の件(新入会員未登録、名簿記載漏れ等)雑誌の発送停止者(2年間会費未納)が約200名以上いるため在庫が必要であること等。

研究委員会の広報は「第四紀通信」を活用していただくよう代表者に伝える。

学会事務センター破産被害学会連絡協議会に関する情報は庶務から幹事会へ伝える。

2. 会計

(財)日本学会事務センターの破産に伴う本学会の最終債権金額は3,254,365円であった(破産宣告日の平成16年8月17日現在の預り金帳簿残高4,326,341円から、8月5日現在のセンターに対する負債1,071,976円を差し引いた金額)。

会計処理は学会の普通預金口座から会計幹事用口座へ適宜入金の上、出入りの記録を残す。

3. 編集(庶務幹事代読)

会誌(43-5) 会報(11-5)を発送した。

2004年度第1回編集委員会(2004年9月15日(土)開催)報告

4. 行事

行事幹事欠席のため特になし。

5. 広報

第四紀通信11-5を発送済み。次号11-6は来週末に原稿締切の予定。

松下まり子広報委員が勤務先を退職したが広報委員の仕事は継続。

ホームページを更新した。

幹事会メンバーリストのほか会員メンバーリストがあるが、会員に有益な情報は積極的に広報する。

6. 渉外

地球惑星科学関連学会の地学教育・理科教育に関する提言について賛成した。

地球惑星科学関連学会「連携のありかたに関する検討WG」より「日本地球惑星科学連合」設立の提案があり、第四紀学会は参加の意思を表明した。学会からの代表は奥村渉外幹事がつとめる。

「日本地球惑星科学連合」の日本学術会議会員候補者情報を第四紀学会から提供する必要がある。

7. 企画（庶務幹事代読）

2005年2月20日のシンポジウム（千葉県立中央博と共催）のちらしの配付はホームページからダウンロードできるようにする。

8. その他

学術会議研連シンポジウム（11月28日）について、会員メンバーリストとホームページに掲載、広報した。

50周年事業実行委員会報告（熊井会長）CD-ROMの編集作業に関する進捗状況と今後の見通し。

次回幹事会は12月11日（土）14:00～、早稲田大学にて開催の予定。

議事：評議員会資料原案作成等

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。
第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 電話 078-803-5734 Fax 078-803-5757
広報委員：松下まり子・後藤秀昭 編集書記：岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr>から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。